

【視察先概要】

日本最大級の防災イベント「ぼうさいこくたい 2026 in 鳥取」

■ 概要

「ぼうさいこくたい」は、行政、企業、地域団体、大学、NPO 等が一堂に会し、防災・減災に関する取組を共有する**国内最大級の防災イベント**です。2026 年は鳥取県倉吉市で開催され、企業防災、事業継続、地域防災、災害時の情報・物流など、事業者に関わるさまざまなテーマについて、講演・セッションや展示等が行われます。

■ ねらい

小売・卸売業は、災害時においても地域住民の生活に必要な商品を供給する役割を担う一方、仕入先や物流拠点、配送網の被災、停電・断水、従業員の確保などにより、事業継続が困難となる可能性があります。本視察では、ぼうさいこくたいへの参加を通じて、**災害時の物流・サプライチェーンへの対応、店舗・事業所の防災対策、従業員・顧客の安全確保**について学び、各事業所における防災・事業継続への備えを見直す機会とします。

■ 見どころ

① オープニングセッション

内閣府防災担当大臣、鳥取県知事、倉吉市長等の挨拶をはじめ、防災をテーマとした安田大サーカス（芸人）のステージや、「鳥取県における過去の災害からの復旧、復興の歩みと今後に向けて」と題した講演が行われます。

② AR で災害（豪雨・暴風と大雪・吹雪）を疑似体験

気象予報士の解説とともに、AR（拡張現実）を活用して、豪雨・暴風や大雪・吹雪を疑似体験。実際の災害をイメージしながら、防災への理解を深めることができます。

③ 「気候変動時代の企業防災」企業防災×AI・データ活用

拠点・取引先・物流情報と災害リスクデータをつなぎ、サプライチェーンのリスク把握や BCP・BCM に活かす方法を紹介。これからの企業防災における AI・データ活用の可能性を知ることができます。

④ 災害時に活躍する最新技術を体感

災害時の物資輸送や救助活動に活用されるドローンをはじめ、車両・企業ブースなど約 40 ブースの防災関連展示を見学できます。

＼ こんな企画にも注目！ ／

- ・「～SAGAWA の防災～ 佐川アドバンス『防災 BASE』が支える、実効性ある共助のかたち」
- ・「気候変動時代の企業防災：サプライチェーン情報と災害リスクデータをつなぐ共創調査」
- ・「企業と地域を守る BCP 普及啓発セミナー」
- ・「暮らしの中の防災 ～フェーズフリーに貢献するパイオニア企業～」
- ・「事業継続・レジリエンス向上セミナー」
- ・「防災分野へのドローン利活用の最前線」

※上記以外にも、さまざまなセッション、ワークショップ、展示が予定されています。

※各企画の詳細・開催時間等は、[ぼうさいこくたい2026 プログラム](https://bosai-kokutai.jp/2026/program/)をご覧ください。

（HP：<https://bosai-kokutai.jp/2026/program/>）

倉吉白壁土蔵群

■ 概要

倉吉白壁土蔵群は、江戸時代から昭和期にかけての建築物が残り、かつての商家町の雰囲気を感じることができます。伝統的な建物を保存するだけでなく、店舗や工房、飲食店などとして活用し、町のにぎわいにつなげている点が特徴です。

■ ねらい

人口減少や消費者の購買行動が変化する中、地域の小売・卸売業においても、従来の商圈だけに頼らず、域外から新たな消費を呼び込むことや、商品・店舗の魅力を高めることが重要となっています。本視察では、現地ガイドの解説を聞きながら実際にまちなみや店舗を見て回り、観光地としての魅力や人の流れ、店舗のあり方などを商業・流通の視点から捉えることで、地域への集客や消費につながる工夫について知見を得る機会とします。

■ 見どころ

① ガイドと巡る白壁土蔵群

個性豊かな現地ガイドが、まちなみの歴史や当時の逸話を交えながらご案内。ただ歩くだけでは気づかない白壁土蔵群の魅力を知ることができます。

② 江戸～大正時代の商家・町並み

江戸時代から大正時代にかけて建てられた古い商家や白壁土蔵が残る町並みを散策します。歴史的な建物が現在どのように活用されているかにも注目です。

③ 歴史的建物の活用を見る

1760 年建築の現存最古の町屋とされる「倉吉淀屋」や、現在は地域の防災センターとして活用されている「くら用心」など、歴史的建物の現在の活用方法を実際に見ることができます。

④ 店舗・地域の魅力に注目

「赤瓦一号館」や「玉川」など、地域の特色を活かした店舗も見学。特産品、地酒、雑貨、竹工芸品などの販売や、建物の特徴を活かした店舗づくりなど、商業・流通の視点から地域の魅力を捉えます。

